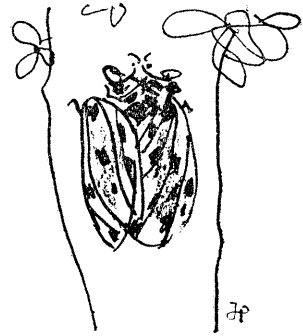


# 一年保育と 二年保育の 問題 (その六)

八坂富子



ので、比較対象する事例を持っていないことをおことわりして置く。

然し何年か前に奉職した園で両方扱っていて、どちらも一組を別々に編成している場合、組の雰囲気とか、生活の仕方などに、かなり違いを感じたことがある。

又現在二年保育年長組に一人だけ一年保育児が混っているのも、他の子供と比較して見れば出来ないことは無い。然し三十七対一であるから、組の計画は勿論二年保育としてたててあるし、只取扱の上で必要を感じた時に個別指導をするだけである。

又その子供が普通児であり

社会性の面でも順調な発達をしているので組の雰囲気にもすぐ順応するし、子供自身も他の子供との生活を心から楽しんでいる

ように思われる。他の子供よりも幼稚園の経験が少いために仕事の面で劣等感を持つということも見受けられない。時々集団行動が他の子供より一足遅れることがあっても、気がついた時にすぐついてくる。そして自分も足並の揃ったことをよるこび、友達も追いついてくれたことをよるこぶ。だから学級経営の上では問題は起らない。

## ○一年保育児(A)と

## 二年保育児(B)の差異

### (一)学級の雰囲気や生活態度の差異

古い記憶を辿ったり、又近くは他の幼稚園を見せて貰って感じられることを挙げて見ると、

- A・活気が無い      B・活気にみちている
- A・行儀が良い      B・行儀が悪い
- A・自主性が強い    B・自主性が弱い
- A・協調性が強い    B・協調性が弱い

### (二)中や深さの差異

幼稚園生活を長く経験した者と、短く経験した者とは一つの事項について、どれ

○はじめに

現在私の園では二年保育ばかりしている

だけの中や深さの差異を持つか実験を試みた。

私の園では前にも述べたように、三十七対一で行った時が三月の卒園も間近い日であった。一年間生活を共にして、二年保育児の生活に悉皆順応しているの、その結果は残念ながら予想したような差異を認めることが出来なかった。或はそれに加えて問題が適当で無かったのかも知れない。

○日時 昭和三十一年三月十七日

○場所 静かな部屋で個別検査

○問題・言語 絵を見て話す(キングダブツク三月号はるのはだけ 二面つづき)

「この絵のお話をして下さい。」途中で何も助言を与えない。

○条件 同条件の子供を選ぶ、二人共生活年令六歳九ヶ月。知能指数一三九の男児家庭環境普通。一年保育児(A)は教員、二年保育児(B)は商業

Aあのねあの、お百姓さんやんか、が、働きに、行って、子供たちも、行って、花つみしてる。空が、青い、それから、桜、梅も、さいて、いる。で、山羊が、

草を、食べてる。

B春が、来たけね、お百姓さんがね、一生懸命してね、子供が、来たけね、花をとってるの。男の子が、羊連れて来てね、草を、食べさせてるの。それから、男の子が、上を、見てるの。

このようにA児は十七文節、B児は十六文節、内容もほぼ同じことを話している。

### (三)身体発育の上にあられる差異

前に述べた実験の結果から、こんなことも考えて見た。現在では日常の行動観察で、殆ど一年保育児であったということさえ感じられない程、ゆたかな生活を楽しんでいるが、一年前に、A児が入園した当時を考えると、集団行動の足並が遅れたり、又気がついた時に追いつこうとする努力や、そのために消耗するエネルギーも大きかったのでは無いか。

そこでその頃の両者の体重増加率並びに

	A 児	B 児
一年間増加	二・五疋	二・五疋
四月↓五月の増加	〇・疋	〇・五疋

一年間の増加率を比較して見ると次の表のようになる。

右の表のように、A児は四月↓五月にかけては停滞し、B児は月々順調に増加し、しかも一年間の増加率は両者共等しい。

### (四)行動の特長

もう一つB児の体重記録から考えられることは、二期期のなかば過ぎ、十月↓十一月にかけて停滞している。この時の行動の特長として、幼稚園生活に自信が出来て、殊に遊具を使って外で遊ぶことに力が入ったようである。時々寒い日がおとつれる、十一月頃でも一人外へ出て元気に遊んでいる。友達が室内で仕事をしても、あまりそれに興味や関心を示さない。ぐったり疲れきるまで遊ぶ。その後段々に落ちついて三学期に入ると、全く他の子供と歩調が揃い、遊びの面でも仕事の面でもバランスのとれた好ましい生活が出来るようになった。

このようにB児は順調に進んで来たがA児の場合は波があった。B児も年少組の時には、このような波があったに違いない。

そして見るとA児とB児の中と深さの違いはA児入園当初の五月頃か、十月頃波はけしかつた時に実験したら或は差異があつたのではないかと思われる。

### ○結果に対する考察

前に述べたような、ささやかな観察や実験の結果から見ても二年保育の方が好ましいと思う。何故なら、卒園して行く時に両者の差があまり認められないでも、それまでに至る生活の一こま／＼が充実され豊かであることがあの時代の子供の仕合せであり、幼稚園教育のねらいだからである。重ねていえば結果より過程を尊重するからである。

### ○幼児の家庭環境から

#### 考えられるもの

立場を変えて幼児の家庭環境を考えて見た時に、果して環境といふ両親の教育的配慮が充分なされているであろうか。

現在の日本の状況では、あの時代の子供が充分に遊びまはる空間も無い。又それを

望むことも無理である。両親も非常に忙しくて、子供に充分な教育的配慮をしてやることが出来ない。だから子供が順調な発育をして集団生活が可能な範囲では、そして親が経済的負担に耐えるなら、子供のためには二年保育の方が一年保育より仕合せだと思ふ。勿論対象になる幼稚園が理想的な教育の場であることを前提として、

### ○教育行政の立場から

未だ日本の全幼児の何割かしか、幼児教育を受けていない今日では少い施設は大勢の幼児が押しかけた時は機会均等の立場から一年保育が優先するのは当然である。

然し地区によってはかなり施設の普及しているところもあるし、きくところによると、人に政策の効あつてか、今年あたりから幼児が全国的に少くなるようである。

考えようによっては、一転換期にあるのかも知れない。

従来はとにかく普及徹底ということでは無い基準に達しないものもあつたのでは無いか。

幸い新しい設置基準も出る運びと聞いているので、この時に内容の充実に力を入れて新しい基準や教育内容に一步でも近づけて行き度いものである。そして余力あれば一年保育から二年保育へと手をさしのべるべきでは無いかと思ふ。

### ○むすび

最初にも述べたように現在両者比較の良い事例を持っていないため、明確な裏づけ無しに結論へ持つて行ったことを心苦しう。

これをお読み下さる皆様の御批判御指導をたまわり度い。

(広島大学教育学部附属幼稚園)

× × × × ×